

熱中する学び 2年生虫みつけ

台風が過ぎ、昨日から一気に涼しくなったと感じています。今日2時間目に2年生が、学校近くの稲刈り後の田で、「虫みつけ」をしました。



生活科の一環で、「生きものをとったり、育てたりする活動を通してすんでいた場所、変化や成長の様子に関心をもつこと。世話の仕方や、生命・成長していることに気付き、生きものへの親しみ・大切にする心を育てる」ことが単元のねらいとなります。



こうした活動には、取りに行くのに適した場所の選定や安全面への配慮が学習の大前提になりますが、場所については地域の方に快く了解いただき、また学校の横ということもあり、安心して活動を見守ることができました。



活動の中で子どもたちは「歩いていて足の近くの草をみていて。なんか動くものがいればバッタかも」「こっちの草むらにコオロギがいたで」「バッタが葉っぱにひつつ

いてかくれているで」など友だちと情報交換をしながら、虫取り網も持ち手の長さを工夫して、授業の終わりのころにはうまく使える子が増えていました。私が田んぼに来たのを見つけると、たくさんの子が採った虫を見せに来てくれました。虫かごに入った虫とともに自分が採ったことも伝えたいのだと感じました。



給食後のジャンボ休みにも写真のように先生を誘って田んぼへ行き、虫取りに熱中している2年生とその様子を見守る先生方の姿がありました。人は何かに熱中した時に記憶に刻む学びをされると言われています。しかし子ども

たちの『熱』は、熱しやすく冷めやすいものでもあります。先生方は子どもたちの虫への『熱』を感じ、今が学びを展開する機会と捉えているのだと思います。今後、2年生の虫への『熱』がどんな活動に展開していくのか楽しみにしたいと思います。